

# H M 講習

27年度第2回へリテージマナージャー(HM)育成講習会がこのほど、福島市の県建設センターで開かれた。テーマは「歴史的建造物の修復保全」。

多くの文化財等の復原を手掛け、昨年度の受講生でもある溝井宇一氏(溝峠茶屋(下郷町)、震が井宇一建築事務所)、一松市(旧石澤家茶屋(棚倉町)、鈴木家表門(石川町)、細沼教会(郡山市)を紹介した。

旧猪俣家(木造寄棟づくり茅葺平屋98・55平方尺)は現在、県重要文化財(上から)第2回講習会、講演する溝井氏、三浦氏



手がけた補修を説明した。溝井氏は旧猪俣家(南会津町田島)、旧廣瀬座(伊達市梁川から福島市に移築)、旧亀岡邸(桑折町から伊達市保原町に移築)、東日本大震災による津波で現在は滅失した観海堂(新地町)、旧鈴木家(平田村)、大内峠茶屋(下郷町)、震が城公園内の洗心亭(二本松市)、旧石澤家茶屋(棚倉町)、鈴木家表門(石川町)、細沼教会(郡山市)を紹介した。

財だが、国重要文化財となつている只見町の五十嵐家や馬場家とはほぼ同様のつくりであり、県内でも古い民家とみられる。民家を町が買い取り、古民家研究で第一人者だった東北工業大学の故・草野和夫教授が監修し復原に当たった。痕跡図を

描きこれに基づき痕跡表を作成。手間暇がかかるが完全に作られた当時に戻すことができたという。ただ本来、土壁・砂壁であったが、雪害が予想され杉の板張りとした。現在は民具等が置かれ博物館的に使われている。平成6年に福島市民家園に移築された旧廣瀬座は、江戸末期から大正期にかけて全国的に芝居小屋が作られたうちの一つ。現存するのは愛媛の内子座。秋田の康楽館

## 付加価値で後世へ継承

### 修復保全がテーマ 溝井、三浦氏が講師

など希少だが、中でも明治20年建築の廣瀬座は、江戸時代の名残を伝える貴重な遺産。木造一部2階建て小部屋500・538平方尺、2階227・027平方尺、奈落(地下)54・08平方尺。工費は坪8円ほどで、同時期に建設された田島郡役所が18円だったのに比べ、開きがある。移築復原時に施工した筋交いと小屋の火打梁による耐震補強により、震災でも被害が少なかった。

桑折町伊達崎から保原総合公園内に移築された旧亀岡邸は、明治期の農民家屋としては珍しい擬洋風建築。外側は洋風だが、中は和風。亀の象徴が施されるなど材料の隙間が狭く、通常6畳以上ほしいところ、2畳3畳程度の部分もあり、翌8年3月には県重要文化財に指定された。W造2階建て延べ646・9平方尺。

新地町にあった観海堂は、明和6年築の県内最古の小学校。県は、建築物ではなく史跡として指定しており、当時のままに復原し人形を置いて授業風景などを再現している。津波で建物ごと流された。下郷町の大内峠茶屋は、そもそも建物はなく、発掘により柱跡を発見。これを基に、書籍等で確認しながら建物を作り上げた。現在はイベントで使用されている。同様に、棚倉町の旧石澤家茶屋も増築され原型とは異なっていたが、記載の文献を参考に復原した。

細沼教会は、震災でひびが入り改修を行った。伊達郡役所同様、木ずりの隙間が狭く、通常6畳以上ほしいところ、2畳3畳程度の部分もあり、これが壁の落下につながったと見ており文化庁も同様の所見。溝井氏は「復原は、建築士だけで考えるのではなく材料、大工、石造住宅。天保年間から昭和初期にかけて呉服屋・地主・金融業を営むほか、明治年間からは北海道や秋田で製材業も営んだという。庭園には江戸時代、藤田宿の本陣跡もある。平成10年に登録有形文化財に指定され現在も当主が居住している。震災で洋間と和室の境が剥落、一度解体して組み直した。耐震壁を設置し、腰壁には元の材料を生かして使用。屋根も補修している。

このうち、大正10年築の奥山家住宅は、国見町坪あったが、維持費捻出のため半分を手離したという。